

## NHK 海外情報発信強化に関する検討会（第 3 回）議事要旨

### 1. 日時

平成 26 年 10 月 28 日（火） 14 時 00 分～ 15 時 20 分

### 2. 場所

総務省 7 階 省議室

### 3. 出席者

#### （1）構成員

多賀谷座長、青山構成員、岡構成員、坂村構成員、嵩構成員、高嶋構成員、高島構成員、野上構成員、原構成員、水越構成員、山本構成員

#### （2）オブザーバ

岡庭外務副報道官（外務省）

#### （3）プレゼンテーション

山田副部長、斉藤上級研究員（NHK 放送文化研究所）

#### （4）総務省

桜井総務審議官、福岡大臣官房長、今林大臣官房総括審議官、安藤情報流通行政局長、渡辺大臣官房審議官、椿総務課長、長塩放送政策課長、湯本情報通信作品振興課長、金澤国際放送推進室長、吉田放送政策課企画官

### 4. 議事要旨

#### （1）NHK 放送文化研究所からの発表

斉藤上級研究員より、資料 3-1 に基づき、BBC ワールドニュース及びフランス 24 の現状について説明が行われた。

山田副部長より、資料 3-1 に基づき、CCTV の現状について説明が行われた。

#### （2）意見交換（構成員の主な発言は以下のとおり）

##### 【青山構成員】

- ・ CCTV を見た台湾の現地人がプロパガンダの荒唐無稽さに気づくところはどういうことがあったのか。

（→山田副部長：どこがどうひどいという具体的な話を直接聞いたわけではないが、国民党の独裁時代のプロパガンダ放送と見比べて、CCTV はそれよりひどいと思う人が台湾人には多い。）

#### 【岡構成員】

- ・ 日本のプレゼンスを高めていくには、放送も重要な一要素であると改めて感じた。国家戦略としてどうしていくのかということも含め議論していく必要がある。
- ・ 放送コンテンツの海外展開で、日本が遅れているのは事実。どうやって強化していくのかという方向で議論をしていくべき。

#### 【坂村構成員】

- ・ どのように伝えようとしているのかといったやり方——例えば、ネットを駆使するとか、周波数をどうしているのかといった「やり方」と、アフリカという中国が重要と考えている地域での取組といった「状況」と、「内容」とについてはそれぞれ分けて考える必要がある。
- ・ 中国はプロパガンダが非常に強いという話があったが、中国の考えが分かるという点では他の国が見ても役に立つ場合もある。
- ・ イギリスもフランスも編成が本国と同じ。編成をどうするかは重要な話であり、国内のものと構成を一緒にすることで、コストも下がるのではないか。どういう編成にするのかは議論した方がよいのではないか。

#### 【鳶構成員】

- ・ 国際放送とは何かを考えると、各国の国際放送が、国益をどう発信するかという視点の違いがある。中国はまさに国益を発信しているが、フランスやイギリスはどうか。(→齊藤上級研究員：BBC ワールドニュースについては、BBC の公共目的に合致していなければならない。フランスは、正確で公平な報道をするということが規定された公共放送という位置づけ。)
- ・ 日本ではスカパーで中国放送が見られる。ニュースについては、朝夕に日本語で同時通訳しているがどう行われているのか。(→山田副部長：日本語の訳をつけるというのはかなりのコストであり、商業ベースで成り立つとは考えにくく、相当の中国政府予算の関与はあると考えている。)

#### 【高嶋構成員】

- ・ 「NHK ワールド」が日本が放送しているものということが知られていないことが問題。
- ・ NHK ワールドを知らせていくために予算が必要なのであれば、予算措置に関する議論を進める必要がある。
- ・ NHK ワールドは、どこでどれぐらいの人が視聴しているのか、何を期待しているのかについてのデータを揃えないと議論の方向性が見えない。
- ・ ネットにおいては、アプリの存在を知らないということではアクセスもできない。こういった点も詰めていく必要があるのではないか。

#### 【高島構成員】

- ・ ニューヨークタイムズで、6000 億円規模の予算の一部を使って、CCTV が業務を拡大したという記事を見たが信憑性をどう考えるか。何年間で使ったのか。(→山田副部長：サウスチャイナの報道と内容が符合するのでおおむね正しいのではないか。何年で使ったかは不明だが、数年で使ったのではないか。)

- ・ NHK ワールドそのものがまだ国内でもほとんど知られていないのが実態。一部のケーブルテレビやネットで視聴できるといっても、普通のテレビで普通に国内で見ることから比べるとまだまだ遅れている。
- ・ NHK ワールドの国内認知度は依然低い。衛星を活用して、国内で放送すれば認知度向上に役立つ。

#### 【野上構成員】

- ・ 視聴率を上げていく手法とコンテンツは切り離して考えるべき。
- ・ CCTV のコンテンツについては、我々の視点で見ている訳ではなく、何故、視聴率が保てるのかということ踏まえると、視聴者の水準がどの辺にあるかは考える必要があり、過小評価すべきではないと考える。
- ・ BBC の Public diplomacy もそんなに純粋な中立ということでもない。
- ・ NHK ワールドは、BBC や CNN を目指すのか、それともニッチでいくのかについて、議論が必要。

#### 【原構成員】

- ・ CCTV は海外のキャスターをどう採用しているのか。また、外国人キャスターが CCTV の方針と揉めたりすることはないのか。  
(→山田副部長：採用については存じ上げない。欧米人のキャスターが CCTV の方針と揉めたという話を断片的に伝え聞いたことはある。)